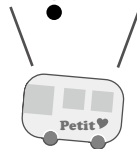




新村の人口・世帯数
 平成 29 年 3 月 1 日現在
 人口 3,263 人
 世帯数 1,279 世帯

プチ送迎ボランティア

総務大臣賞受賞!



表彰を受ける岩間副会長 (H29.2.4 都市センターホテル)

新村地区で高齢者の買い物や通院の送迎支援をしているボランティア組織「プチ送迎ボランティア」が、全国各地で地域をより良くしようと呼びかける個人・団体等を表彰する、総務省主催の平成28年度「ふるさとづくり大賞」で総務大臣賞(団体表彰)を受賞しました。

高齢者の交通手段の確保という地域課題に対して、住民が主体となり解決する仕組みを作り上げた点等が高く評価されました。

関係者コメント

上原哲郎会長
 多くの地域の方々の協力のおかげと感謝している。高齢化が進む中、高齢者の元気な暮らしを応援していきたい。そのために、今後も多くの人が助け合って「プチ送迎」の活動を続けていきたいと思うので、ご協力をよろしくお願いしたい。

岩間海太郎副会長

これまで会員全員の協力で活動してきた。活動を長く続けるため、より多くの人の参加をお願いしたい。また、受賞を機に、県内や全国に同様の活動が広がっていく。



菅谷市長に受賞報告 (H29.2.8)

公民館70年を記念して



分科会の様子

「未来を拓く自治と協働のまちづくりを目指す研究会」松本大会が1月28・29日全国から600名を超える参加者を迎えて実施されました。

1日目は松本市市民芸術館でパネルディスカッションと全国リレートークが行われました。

2日目は松本市中央公民館で分科会が11のテーマで行われ、第7分科会では新村地区のプチ送迎ボランティアが「ドアtoドアの移動支援」と題して事例の実践内容が発表されました。

身近な話題に参加者からは盛んな質疑応答がありました。

健康のカギは筋力にあり

3月14日(火) 松本大学にて、あたらしの郷協議会主催の「健康づくり講座」が開催され、約90名が参加しました。

講師に松本大学スポーツ健康学科長の根本賢一教授を迎え、効果的なウォーキング法や認知症予防について講義をいただきました。高齢者は加齢による身体機能の低下を前提に、「運動した方がいい」ではなく「運動しなければいけない」という意識を持つことが大切と話され、その実践法や効果などを熱心にメモする参加者の姿が印象的でした。

講義の中で様々なキーワードが出されましたが、どれも難しいことではなく、生活の中で少し意識すれば実践できるもので、「早速やってみよう」という声も多く聞かれました。

今回は座学が主となりましたが、最後には実践講座を望む声も出され、次に繋がる有意義な講座となりました。



動きも交えて楽しく受講

八束穂

3月3日は女の子の健やかな成長を願う「桃の節句」だ。その起源は中国とされ、平安時代に「流し雛」として定着した。現代のよ

うに段飾りなどを行うようになったのは江戸時代からとされている▼少し前までは七段飾りが主流であった雛人形も、生活様式や価値観の変化から、ケース入りの簡易的なものも多く見かける。地域によって差はあるにしろ、時代の変化とともに祝い方が変わるのも、人が作り上げたものである以上、ある意味自然な流れに思える▼このような変化は雛人形に限ったことではないだろう。公民館活動に置き換えて考えると、人口減少や活動への関心低下など、社会や人の変化により、活動が継続してできない事態が生じることもある▼古からの風習にしろ、公民館活動にしろ、大切にしたいのは、なぜ、何のために行うのかという原点の部分だ。アプローチの仕方は変わっても、先人が雛人形に込めた想いや、活動で培われた人と人の絆を、未来に紡いでいくことが重要だ。

96年の風雪に耐え

惜しまれ消える旧新村駅舎

大正10年、筑摩鉄道の新村松本間の開通と同時に新村駅の営業が始まりました。

そこは高綱道と和田道が交わる交通の要衝地で、駅開業以来家が次第に増え、商店、料理屋、旅館等も集まり賑やかな町並みとなりました。鉄道も「松本電鉄上高地線」と改称され通勤通学、登山者の足として、すっかり地域の風景に溶け込み沿線の住民に愛され続けてきました。

こうして、約一世紀の長きに亘り風雪に耐えながら駅前界隈の賑わいを見つめ、地域の経済発展に大いに寄与してきました。しかし木造であるが故に次第に老朽化が進み、危険性が懸念されていました。

平成23年11月、アルピコ交通から新村地区に対し旧駅舎の東隣に新駅舎を建設し、安全確保のため旧駅舎は解体する計画案が提示され、旧駅舎保存を巡る議論が沸き上がり

ました。旧駅舎保存には様々な考え方がありましたが、意見の大半は、旧駅舎を現地保存しようとの意向が強く、それを受け平成24年1月に「新村駅舎を残す

会」が発足されました。

以後「残す会」は現地保存に向けて、様々な活動をしてきましたが、具体的な保存策を見出すことが出来ずに時が過ぎました。

その間、旧駅舎の傷みは進み、倒壊の恐れも出てきました。そしてこの2月、アルピコ交通から旧駅舎を解体する旨の話が地区関係者にありま

した。解体後の跡地は観光バスの発着場として利用し、松本・新村間の電車利用と相まって、松本西部地区の交通拠点とする計画とのことです。

地区としては解体を受け入れ、今後は、アルピコ交通と継続して話し合いながら、駅や上高地線を活用した地域の発展を考えることになりました。尚、解体は3月末には終了し更地となります。



解体神事の様子 (H29.3.20)

信大出前講座開催 菊池聡教授の講演会



「私は騙されない」と思っていますか？

2月のふれあい健康教室で「だまされる心の心理学」をテーマに菊池先生の講演会を開催、80名の参加者が真剣に聴講しました。

未だに悪質商法による被害は後を絶たず、新村でも関心の高さを感じました。心理学の話は難しいのではと先入観を持ったものの、先生のバリエーションの豊富に聴衆は引き込まれました。

だまされないという自信が一番危険であり、人間はだまされるのが自然なことと話している事実を百田玉の絵柄を描く実験で示されました。

被害を出さないためにお金の管理に一層気を配り、身近で何でも相談できる関係を作っておくことが大事であると結ばれました。

毎日の食事にひと工夫…

1月23日(月)「女性の料理教室」が開催され、12名が参加しました。

『生涯骨太・バランス良い食事』をテーマに、肉団子と野菜を牛乳で煮込んだスープや、チーズの旨味を生かした野菜サラダなど、カルシウム豊富なメニューに若いお母さんからは「離乳食にも良い、早速作りたい」と嬉しい声がありました。また、お手軽なチーズ作りが紹介され、交流の輪が広がりました。

食改 北原 富子

「太郎の石枕」まんじゅう教室

2月19日(日)参加者8名とさわらびの会員で行いました。平成2年頃から、生地、餡、蒸す時間など試行錯誤の末に、今のレシピができました。抹茶の生地に黒餡、味噌の生地に白餡、ゆかりの生地に白餡と赤梅を混ぜたものもの三種類です。

「石枕」とは太郎がこんな石を枕にして寝ていたのではとつけました。「新村の宝」のひとつとして文化祭や教室などの機会でも多くの人に伝えていきたいと思っています。さわらびの会 柳澤 洋子

第29回新村地区

冬季室内競技大会

2月5日(日)芝沢体育館で行われ、綱引き・卓球で熱戦が繰り広げられました。

結果

○綱引きの部 参加：9町会

優勝 上新西

準優勝 南新東

第3位 上新東

○卓球の部 参加：10町会

優勝 下新南

準優勝 山王

第3位 南新東

○卓球(小学生の部)

優勝 谷本陽向さん

○卓球(中学生の部)

優勝 青木翔馬さん

準優勝 網倉笑夏さん

松本大学新校舎竣工

1月29日(日)松本大学8号館の竣工式が行われました。この4月から開設する教育学部の講義室の他、体育館や多目的室などが設置されています。



新校舎外観